

背景・目的

上川北部森林管理署では、「天塩川流域における魚類等の移動の連続性確保を目的とした関係機関連携会議」等に参加し、関係機関と遡上困難施設改善に向けた情報交換を行ってきました。今回は、会議の内容や魚道ワーキングを通じ学識経験者の意見を取り入れた治山施設の改良と魚道を設置してきたので、その取り組みについて報告します。

取り組み内容

1. 施設改良と現状確認

水面落差が大きく遡上が不可能である既設堰堤の下流側に産卵床が確認された流域を対象に、治山施設の改良や魚道設置を実施し、その後、魚類の遡上及び産卵床の確認を行いました。



令和3年度施工
折り返し式魚道



令和3年度施工
治山施設の改良



令和4年度施工
張り出し式魚道

2. 有識者等による効果確認

天塩川魚類専門家会議（魚道ワーキング）を現地で開催し、令和4年度に施工した施設について、その効果の確認と意見交換を行いました。



魚道ワーキングの様子

結果・考察

1. 魚類の遡上等の確認

目視及び水中撮影カメラを活用し魚道の上流の状況を確認したところ、サクラマス及びヤマメ（サクラマスの陸封型）の遡上や産卵床が確認でき、魚道が機能していることを確認しました。

令和4年度に実施した名寄川上流産卵床調査



サクラマス産卵床



サクラマス、ヤマメ

サクラマス産卵床15床、サクラマス親魚8尾を確認

魚道ワーキング



採捕した魚類



サクラマス・ヤマメ・ハナカジカ・フクドジョウ等を確認

2. 有識者等による考察

魚道については、流量が多くハナカジカ、フクドジョウなどの小型の魚類が遡上できない可能性はあるが、現状では十分に機能していると講評をいただきました。

今後に向けて

今回の取り組みでは、施設改良による魚類の移動の連続性を確保する効果を確認することができ、併せて関係機関と現地で情報交換することができました。

今後も治山施設の本来の目的達成と生態系に配慮した事業の在り方について、継続して会議に参加することで技術の向上を図っていきます。